

未来まちづくり塾

第3回「コミュニケーション・チームビルディング」開催報告

開催日時：

2013年12月6日（金）19:00～21:00

開催場所：

淀川区役所5階会議室

参加者数：

11地活協19名

講師：

淀川区まちづくりセンター支部 土井支援員

全体の流れ：

- 19:00 アイスブレイク、今回の趣旨説明
 ワークショップ
 「間違った時に許される環境と、そうでない環境について」
 コミュニケーション（話す、聴く）
 話す…「普段自分がしているコミュニケーションについて」
 聴く…「態度の悪い聴き方」
 「態度の良い聴き方」
- 20:10 チームビルディング
 「私/あなた」
 「カウント UP」「カウント DOWN」
 「ワンストーリー」
- 21:00 閉会

内容：

未来まちづくり塾の第3回目として、当センター支援員の土井が「コミュニケーション・チームビルディング」をテーマに講義とワークショップを行った。

土井は冒頭のアイスブレイクでバルーンアートのパフォーマンスを披露。団体運営に携わってきた経歴を踏まえて「地域活動やボランティア活動にやりがいを持って参加してもらうためには、仕事を任せることが大切。しかしこれまで自分が担ってきた仕事を新しい人に任せることには勇気がいるもの」と解説。

新しい人を受け入れるためには、失敗した時に許してもらえる環境づくりを整備することが大切だとして、各グループ内で「間違った時に許される環境と、そうでない環境」について10分間話し合い、参加者は普段の地域活動の中で感じていることなどを共有した。

土井は講義の質を高めるためのルールとして「時間を守ること」「失敗を楽しむこと」を設定し、講義を進めた。

最初のテーマである「コミュニケーション」において参加者に伝えられたのは「話す」と「聴く」の2つの要素。

まずは「話す」について、アサーティブ（私良し・あなた良しの態度）の考え方を紹介し、「日頃の会話で、相手にこちらの意思を伝えたつもりが、伝わっていないこともある。また、上位者からの依頼を断れず、仕方なく引き受けることもある。普段のコミュニケーションを急に変えることは難しいが、自分のコミュニケーションのくせを知っておくことが、アサーティブのきっかけになる」と説明。

「普段自分がしているコミュニケーション」をテーマに、各グループ内で5分程度話し合った。

続いては「聴く」ポイントについて。

ここでは、前回のファシリテーションの講座でも学んだ「傾き」「相づち」「繰り返し」を再度確認した後、「態度の悪い聴き方」を1分間、「態度の良い聴き方」を2分間、2人1組で聴き手と話し手が交代しながら行った。

「態度の悪い聴き方」では、肘を付いたり目をそらしたりするなど、聴き手はたとえ話の内容が気になったとしても、普段はやらない態度で話を聴き続けなくてはならず、一方の話し手は、自分の話を聴いてもらえない中で話し続けなくてはいけないことの辛さから、ハンカチで額の汗を拭う参加者もみられ、聴き手・話し手の双方が長く感じる1分間を体感した。

その後に行われた「態度の良い聴き方」では、聴き手が興味を持って自分の話を聴いてくれるとあって、自然と話し手の身振り手振りが大きくなる様子が印象的で、あっという間の2分間が過ぎ去った。

休憩を挟んで、2つ目のテーマは「チームビルディング」。

ここでは企業研修などで用いられるインプロ（即興演劇）のプログラム「私/あなた」「カウント UP/DOWN」「ワンストーリー」という3つのワークショップを通じて、チーム内連携の進め方について提供した。

「私/あなた」は、「私」と言って自らを指さし、視線を合わせて他者を指し「あなた」と振る。「私」に振られた他者は、別の他者に対して同じ動作を繰り返し徐々にスピードを上げながら次々と回していくゲーム。

当初は参加者全員で右回りに「私/あなた」を回していただけだったが、参加者が慣れていくにつれ2グループにしたり、自らの裁量で振る相手を決めたりするなど、様々なバリエーションを参加者に体験頂いた。

ここで土井は「自分が伝えたつもりでも、他者に伝わらなければこのゲームは続かない。目線と身振り手振りで相手にしっかりと伝えることを意識してほしい」と説明した。

2番目に行われた「**カウント UP**」は4人組のチームとなり、1~100までの数字を順番に1ずつ数えながらチームで回し、時間内に100を目指す（「**カウント DOWN**」では100からスタートして1を目指す）ゲームで、数字を数え間違えると最初からやり直しになる。

特に「**カウント DOWN**」は2ケタの数字の変わり目が難しく、急ぎ過ぎてすぐに間違えたり、逆に慎重になり過ぎて最後まで数え終わらなかつたりするなど、チームによって結果に違いがみられた。

「速く終わる為にはスピードを上げなければならない。しかし上げ過ぎると誰かが間違ってしまう。周囲の状況を把握し、他者を思いやることの大切さを体験してほしい」と土井。

3番目に行われた「**ワンストーリー**」は、昔話「桃太郎」をお題に、4人1組でワンフレーズ（「桃太郎は」「川へ」など）ごとに話をつないで回し、3分間で物語の完成を目指すゲーム。

誰でも知っている「桃太郎」のストーリーだが、接続詞や話の順番・個人の記憶内容が少し違うだけで話が止まってしまう。

土井は「人それぞれ思いや考え、価値観を持っているが、自分の価値観を押し付けてもチーム運営は上手くいかない。みんなで1つの価値観を創り上げるイメージを持つことが大切」と説明。

まとめでは、「**ワンストーリー**」の中で「～ました。」の後で話を次に進められる人や、次の人が話しやすいように振ってくれる人など、様々な役割の人がいてチームが成り立っていることをご理解頂いた。普段の会議や活動の中でも、一人ひとりが役割をどう担っていけるかが大切」と伝えて講座を締めくくった。

参加者は今回のワークやゲームの参加を通じて、失敗が受け入れられる環境づくりや、連携して取り組むことの大切さについて認識を深めた。

講座の様子：

